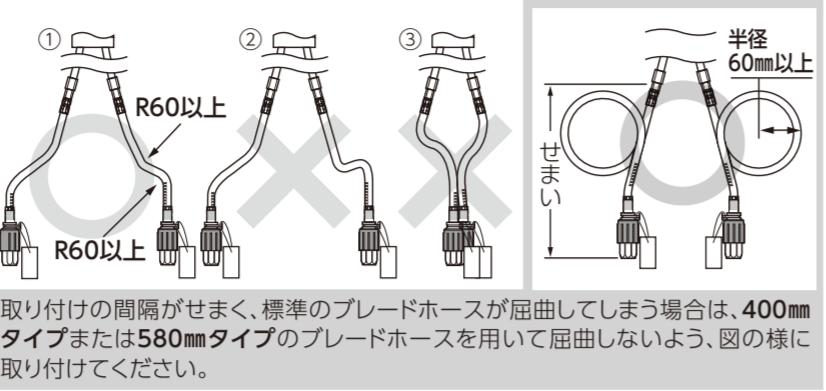


△注意 水が出なくなることがあります

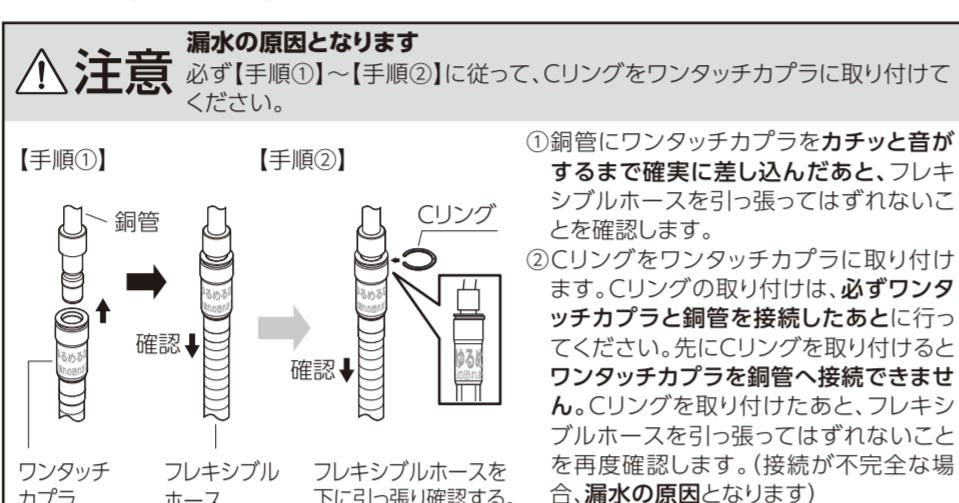
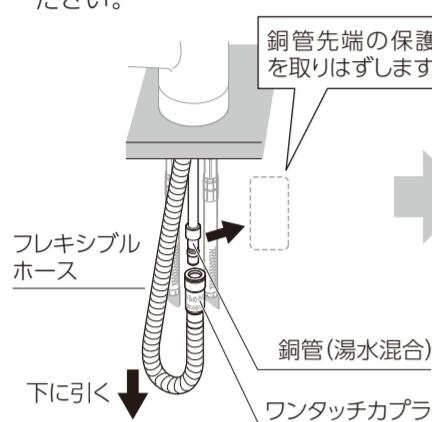
ブレードホース(湯側・水側)の施工上の注意点

- ブレードホースの折れに注意してください。ブレードホースを最小曲げ半径(60mm)よりも小さく曲げて使用すると、ブレードホースが折れることができます。施工作時には最小曲げ半径(60mm)よりも小さく曲げないように、注意してください。
- ブレードホース端面から極端に屈曲して、施工しないでください。
- ブレードホース同士の不要な接触は避けてください。外部補強層の摩耗による外傷でブレードホースの性能が劣化するおそれがあります。

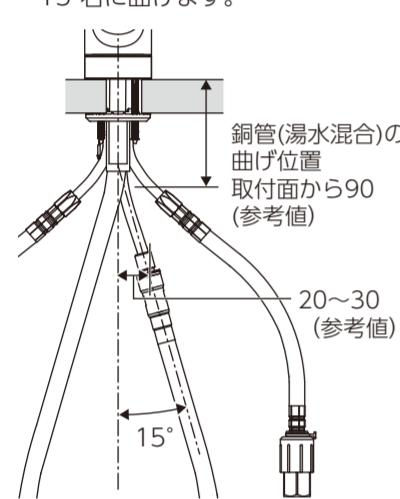


1-6 フレキシブルホースを吐水口側の銅管(湯水混合)に取り付ける

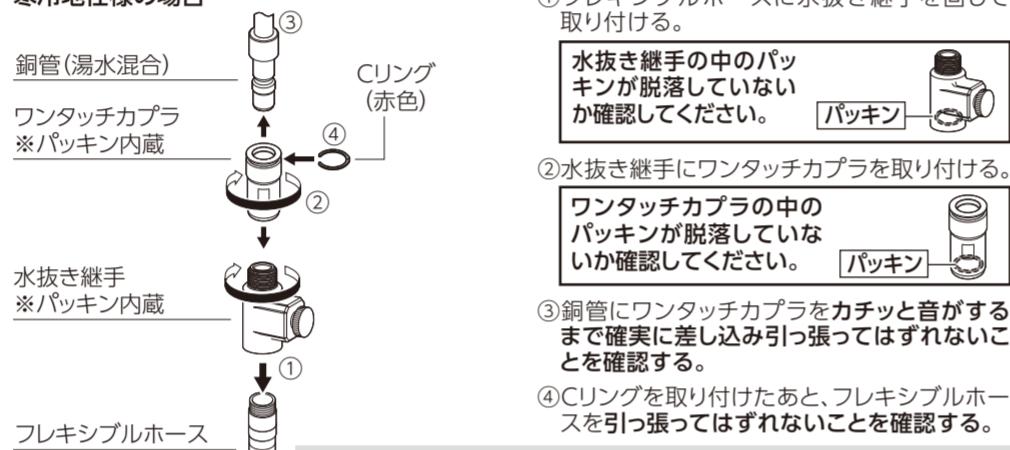
①フレキシブルホースをシンク下に引き出して、銅管(湯水混合)に接続してください。



②銅管(湯水混合)を正面からみて
15°右に曲げます。



寒冷地仕様の場合

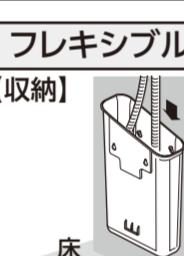


△注意 水漏れのおそれがあります

フレキシブルホース、水抜き継手、ワンタッチカプラの接続には適切な工具を使用し、締め込み後は充分に締め込まれているか確認してください。

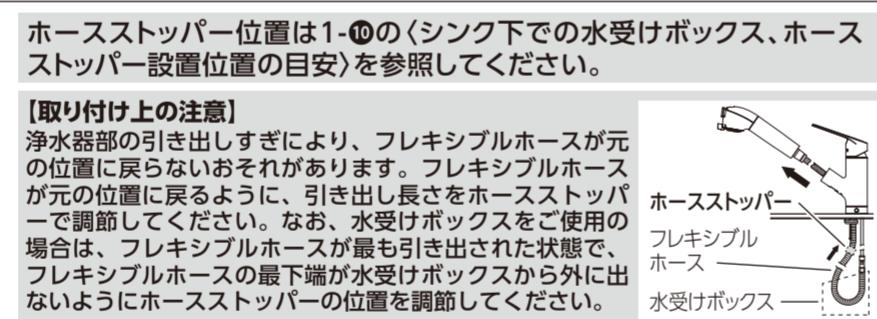
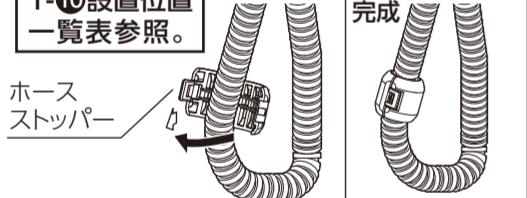
1-7 水道配管の止水栓を開ける

レバーハンドルが閉じていることを確認してから、配管部およびシンク下の止水栓(湯側・水側)を開けます。



1-10 ホースストッパーを取り付ける

フレキシブルホースをはさみ込みます。



タンクレス仕様の施工の仕方

銅管(湯水混合)を曲げて、フレキシブルホースが止水栓に接触しないようにする

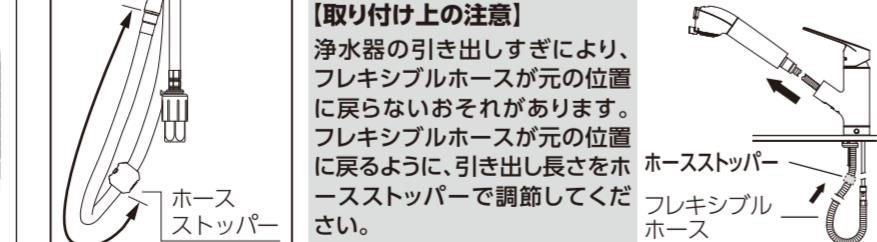
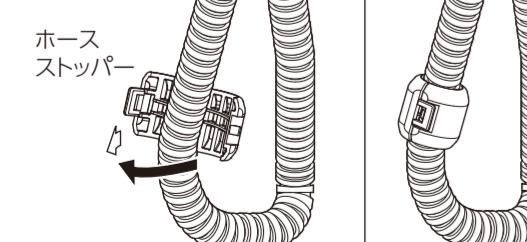
①-1 銅管(湯水混合)を正面からみて
25° 右に曲げます。
※銅管を曲げるときは、折り曲げ位置に注意してください。銅管ガイドが銅管からはずれ、フレキシブルホースがスムーズに取り扱えない可能性があります。

①-2 銅管(湯水混合)を正面からみて
15° 手前に曲げ、止水栓や他部位に接触しないようにします。

フレキシブルホースの出し入れを繰り返して、止水栓および他部位に干渉しないことを確認ください。干渉する場合は、ワンタッチカプラをはずし、②のように銅管を左に曲げたあと、ワンタッチカプラを接続しながらして微調整し、干渉しないようにしてください。

ホースストッパーを取り付ける

フレキシブルホースをはさみ込みます。



2.取り付けが終わったら

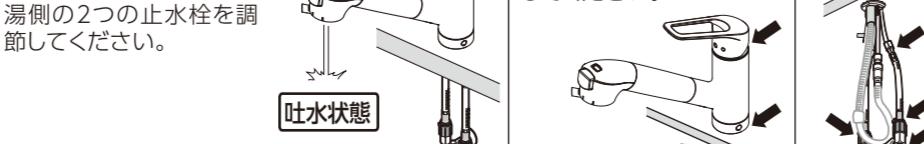
2-1引き出し・収納がスムーズに行えるか確認する

浄水器部の引き出し、収納を数回行い、正常に戻ることを確認してください。スムーズに出し入れ出来ない場合は、フレキシブルホースが給水・給湯の銅管部や、水受けボックスに干渉している可能性があります。位置を調整してフレキシブルホースの通る空間を確保してください。



2-2止水栓で吐水量を調節する

使用時、水側全開および湯側全開のときの吐水量が最適となるように水側・湯側の2つの止水栓を調節してください。



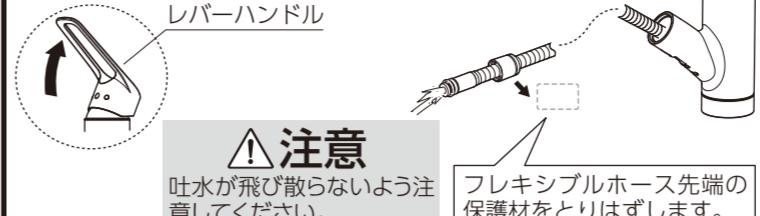
2-3各接続部の水漏れがないかをチェックする

施工完了後は、配管接続部、ネジ式カプラおよび水栓から水漏れないことを確認してください。



1-8浄水器部を取り付ける前に給水管内のゴミなどを洗い流す

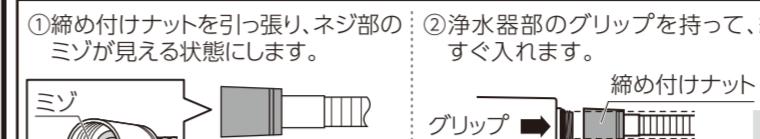
レバーハンドルを上げて左右に振り、給水・給湯管内のゴミなどを完全に洗い流してください。その後レバーハンドルを下げるで閉じてください。



△注意

吐水が飛び散らないよう注意してください。

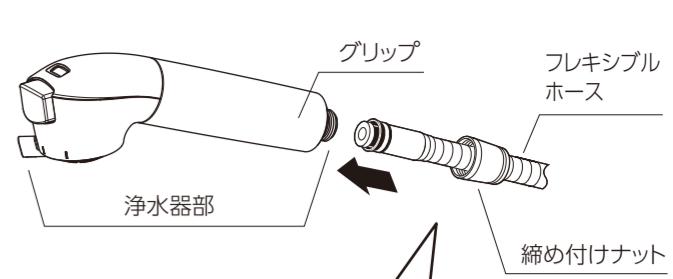
フレキシブルホース先端の保護材をとりはずします。



△注意

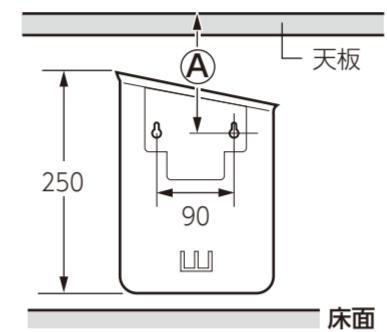
浄水器部は斜めに取り付けないでください。浄水器部側のネジ山が削れて故障や水漏れの原因になります。

1-9浄水器部を取り付ける



1-10水受けボックスを設置する場合

<シンク下での水受けボックス、ホースストッパー設置位置の目安>



設置位置一覧表

JL3シリーズ	フレキシブルホースの長さ	設置位置(A)	ホースストッパー位置(B)
通常仕様	940mm	310mm	400mm
寒冷地仕様	330mm		

JL3シリーズ(分岐付水栓)	フレキシブルホースの長さ	設置位置(A)	ホースストッパー位置(B)
通常仕様	340mm	460mm	
寒冷地仕様	1050mm	360mm	490mm

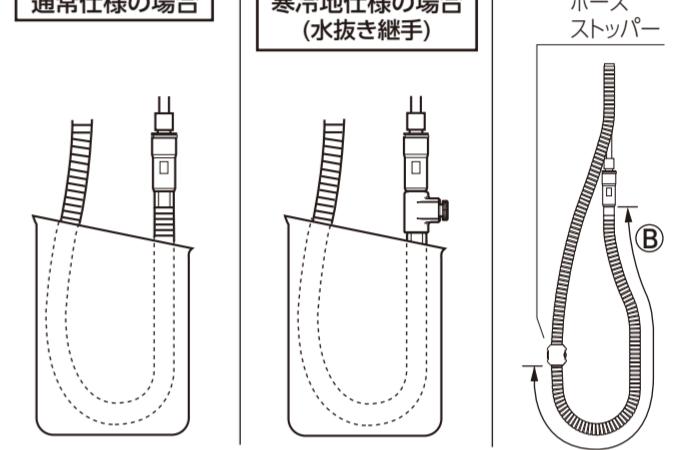
△注意

- 水漏れ事故防止のため、当社製水栓具「みず工房」以外のものに取り付けないでください。
- 水栓本体のスパウトから水が多量に入った際には、水受けボックスを取りはずし、滞留水を捨ててください。
- フレキシブルホースが最も引き出された状態で、フレキシブルホースの最下端が水受けボックスから外に出ないように、ホースストッパーの位置を調節してください。
- 変形するおそれがあります。40°C以上にならないような場所に設置してください。

フレキシブルホースのセッティングの仕方

通常仕様の場合

寒冷地仕様の場合(水抜き継手)



2-4 本体部がガタついていないかをチェックする

施工完了後、本体部にガタつきがある場合は、固定プラグ用キャップをはずし、六角レンチ(4mm)でセパレートユニット固定プラグを増し締めてください。

増し締めたあと、本体下カバーに固定プラグ用キャップをハメ込んで自締めをしてください。

施工完了後、品質表示/節湯C1タグは本体に取り付けておいてください。

[JL3シリーズの場合]

六角レンチ(4mm)

本体下カバーを反時計回りに回す際、約70°回したあたりで引っかかりがある場合がありますが、そのまま約90°までゆっくり回し、「takagi」マークを本体正面の位置にして固定プラグ用キャップをハメ込みます。

1-8-5参照ください。

[JL3シリーズ 分岐付水栓の場合]

固定プラグ用キャップ

本体を固定したあと、固定プラグ用キャップをハメ込みます。

マーキングした位置にドライバーでビスを取り付けます。ビスは水受けボックスの厚み分残して締め込んでください。

マーキングした位置にドライバーでビスを取り付けます。ビスは水受けボックスの厚み分残して締め込んでください。